



YCU PROFILE

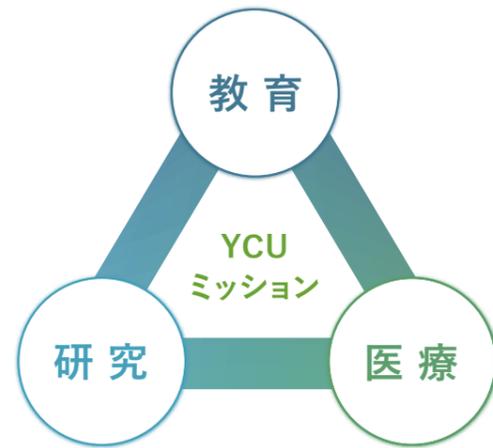


YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

横浜市立大学の理念

YCU ミッション

国際都市・横浜と共に歩み、
教育・研究・医療分野をリードする役割を
果たすことをその使命とし、
社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。



横浜市立大学は、YCU ミッションに基づき、教育と研究の一体化を推進しながら、豊かな教養、豊かな人間性、倫理観を養う人間教育の場とし、「横浜から世界へ羽ばたく」人材育成と知の創生・発信に取り組みます。また、市民をはじめとする地域社会から、本学の教育・研究・医療が必要とされることを存在意義と考え、本学の魅力を一層高めつつ、学生・市民・社会に対して本学が有する知的・医療資源を積極的に還元します。

改革と挑戦で研究力を磨き、 健康と幸福な未来を創造する横浜市立大学

横浜市立大学は、2025年1月の文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」採択を契機に、地域と共に未来を創り出す大学として新たな歩みを進めています。

2028年に創立100周年を迎える本学は、「伝統と革新のその先の未来」に向けて、時代の先端を切り開く大学改革をさらに推進していきます。2026年度には、みなとみらいサテライトキャンパスに「社会連携センター」を開設し、産学官民が協働する知の結節点として、地域課題に対し実効性の高い貢献を果たしてまいります。また、2018年に首都圏で初めて設置されたデータサイエンス学部は、データ人材の輩出への社会的要請に応え、2027年度より学部入学生定員を倍増し、多様な分野へ羽ばたく人材の育成をさらに強化します。附属2病院を有する本学は、質の高い医療提供を通じて地域に寄り添い、横浜の医療と暮らしを支えています。J-PEAKS採択を受け、文理医融合による学際的な教育・研究をさらに加速するとともに、横浜から新たな知と価値を創出し、人々の健康と幸福に寄与する大学であり続けます。引き続き、温かなご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公立大学法人横浜市立大学
理事長 **近野真一**

日本全体の研究力をけん引する「研究の横浜市立大学」を目指して 「国際標準」の大学とともに、未来に向けた連携を

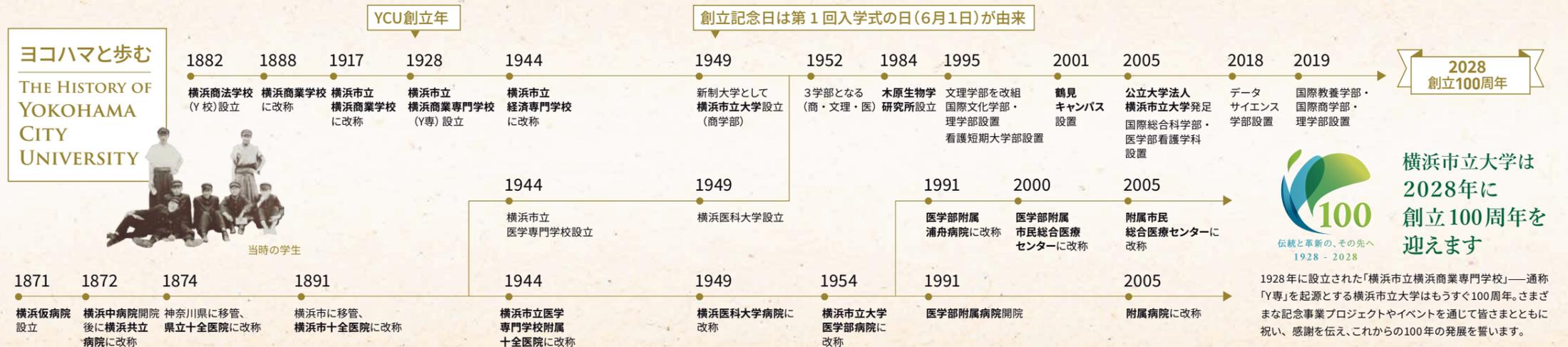
横浜市立大学は、国際都市・横浜にキャンパスを構え、商学部と医学部をルーツとする大学です。創設当初から地域社会や産業界との連携に根ざし、横浜とともに発展してきました。

人口減少や少子高齢化、AI・デジタル技術の急速な普及、グローバル化の進展など、社会は大きな転換期を迎えています。多様な課題が複雑に絡み合う現代において、大学が社会に開かれ、地域や産業界と協働しながら新しい知見を生み出し、実践につなげていくことが一層重要になっています。

本学は、2025年1月には、全国約800大学の中から25大学のみが選ばれる「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。日本の研究力向上をけん引し、世界と肩を並べる教育・研究環境を備えた大学へ——その実現に向けて、教育・研究・医療・社会連携の各分野で、取り組みを一層強化していきます。

地域社会や産業界の皆さまにおかれましては、大学との連携を通じて、研究成果の社会実装、医療を含むさまざまな分野でのイノベーションの創出、学生が地域や企業とともに取り組む実践的な学びの充実など、多様な形で社会に具体的な成果を届けることができます。本学の取り組みが地域と社会の未来につながるよう、皆さまのお力添えを賜りましたら幸甚に存じます。どのようなことでも、本学にお気軽にお問い合わせいただければ幸いです。

横浜市立大学
学長 **石川義弘**



地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)



本学は、J-PEAKS に採択され、国際都市・横浜を拠点に、社会課題の解決とイノベーション創出を進めています。

その取り組みを支える最大の強みが、『多彩なデータ』です。横浜市民約380万人のフィールドデータや、本学が誇る横浜臨床研究ネットワークなどで得られる高度な臨床データをもとに、AI・データサイエンスにより新しい知見を生み出し、産学官民の多様なステークホルダーと共有しながら社会にいかしていきます。この流れを支えているのが、本学独自の仕組みである『よこはまデータサイクル』です。

この強固なデータ基盤をいかし、本学が目指すのは、単なる身体的な健康（ヘルス）にとどまらず、心の充実や社会とのつながりまでを含めた、より広い概念としての『ウェルビーイング』の実現です。

この理念を象徴するキャッチコピーが『ヘルスウェルビーイングなヨコイチ』です。これは、科学的根拠に基づき、人々の暮らしをより豊かにし、地域や社会に貢献する大学であることを示しています。

本学は、人文・社会科学・理学・医学・看護学・データサイエンスを融合し、企業・自治体・研究機関とともに「集学的研究」のハブとして機能します。そして、研究成果を健康増進、まちづくり、新たな社会システムとして市民に還元する「実装拠点」となることを使命としています。

本学と共創する国内外の参画機関

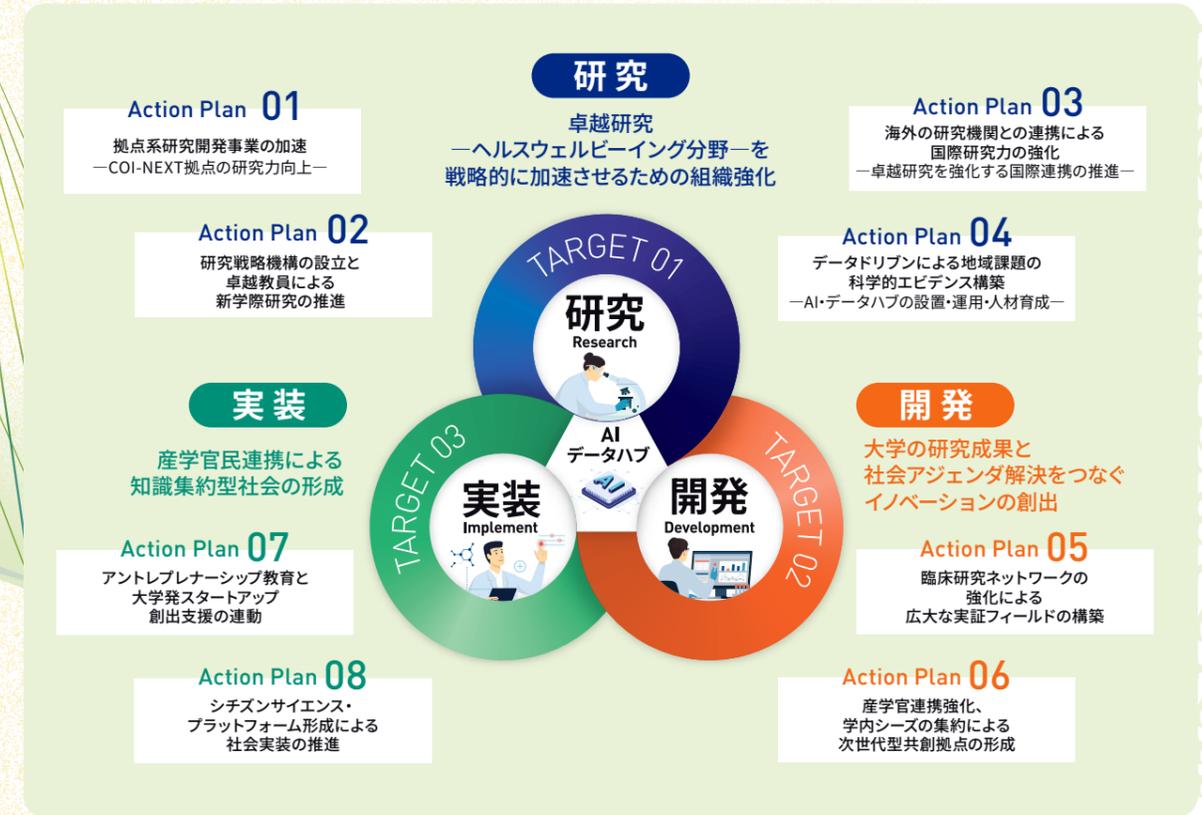
神奈川大学、神奈川県立保健福祉大学、関東学院大学、慶應義塾大学SFC研究所、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、実中研、東京科学大学、東京大学先端科学技術研究センター、スタンフォード大学アジアヘルスリサーチ&エドゥケーションセンター、ルール大学ポーフム ソーシャルサイエンス学部

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」は、日本の研究力向上と価値創造を促す取り組みで、特色ある研究力をもつ大学の戦略的発展を支援するものです。本学が本事業に採択されたことは、これまで培ってきた強みが評価された成果です。横浜市立大学は、社会課題の解決とイノベーション創出をけん引する研究大学として、日本の未来を支える役割を果たしていきます。

横浜市立大学 J-PEAKS 事業サイト▶



共創を加速する「よこはまデータサイクル」を構築し、未来社会における高いヘルスウェルビーイングを実現する



産学官連携の中核となる研究・共創拠点 オープンイノベーションラボ 誕生!

本学は、産学官の共創を進める研究拠点「オープンイノベーションラボ」を2025年に開設しました。当施設には、企業や研究者がワンフロアに集結し産学連携の研究拠点として活用できるスペースや、ラウンジ・オープンスペースなど多様なメンバーでの交流や共創に向けた議論ができるスペースを設置しています。さらに「メンタルヘルス研究領域」を中心とした機器開発・実証実験エリアや、学内外の研究交流を促進する環境を備えています。これらの研究施設の整備により、今後、J-PEAKS事業を一層推進する中核拠点として機能していきます。



施設紹介動画▶



セミナールームは、通常の講義のほか、ワークショップやミーティング、イベントホールとしても利用できる多機能空間です。新たな共同研究のきっかけとなるような多彩なイベントも開催が予定されています。



企業・研究者が活用できる産学連携拠点として、交流・共創を促すラウンジやオープンスペースに加え、メンタルヘルス領域を中心とした実証実験や研究交流を行える環境を備えています。



イマーシブスタジオでは、モーションキャプチャーやメタバース空間などの最新設備を導入し、最先端の研究環境を実現します。

CAMPUS



金沢八景キャンパス
神奈川県横浜市金沢区瀬戸22-2



鶴見キャンパス
神奈川県横浜市鶴見区末広町1-7-29



みなとみらいサテライトキャンパス
神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー7階



福浦キャンパス
神奈川県横浜市金沢区福浦3-9



舞岡キャンパス (木原生物学研究所)
神奈川県横浜市戸塚区舞岡町641-12

新たな社会の創造をリードし、未来を開く横浜市立大学へ

横浜市立大学は、「横浜から世界へ羽ばたく」人材育成と、世界とつながる「知の拠点」として世界水準の研究を進めます。県内唯一の公立大学医学部・附属病院として、最先端の医学研究に取り組むとともに、市民の健康と命を支える「最後の砦」としての機能を果たし続けます。



HOSPITAL

(2026年2月1日現在の情報)

横浜市立大学附属病院 671床 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9

診療体制：39診療科

血液・リウマチ・感染症内科/呼吸器内科/循環器内科/腎臓・高血圧内科/内分泌・糖尿病内科/脳神経内科/脳卒中科/消化器内科/臨床腫瘍科/緩和医療科/総合診療科/精神科/児童精神科/小児科/心臓血管外科/小児循環器/消化器・一般外科/消化器外科/呼吸器外科/乳腺・甲状腺外科/乳腺外科/整形外科/皮膚科/泌尿器科/産婦人科/眼科/耳鼻いんこう科/放射線治療科/放射線診断科/核医学診療科/歯科・口腔外科・矯正歯科/麻酔科/脳神経外科/形成外科/リハビリテーション科/病理診断科/救急科/がんゲノム診断科/遺伝子診療科/難病ゲノム診断科



現代のトレンドを網羅した 5学部6学科・6研究科・2病院を有する中規模総合大学

学生総数
5,275名
学部生 4,309名
大学院生 966名

専任教員数
831名
国際総合科学群 161名
医学群 670名

※2025年4月1日現在

国際教養学部

Campus 八景

多様な学問群の中から多角的な視点と豊かな教養を育み、確かな外国語運用能力と思考力で、現代社会や都市の課題を解決できる人材を育成

都市社会文化研究科

八景

■都市社会文化専攻
都市社会文化研究科基盤的分野と応用的領域の両面に対応できる多分野融合型の教育研究システムを備えていることが大きな特徴

国際商学部

Campus 八景

グローバル企業に必要な経営管理能力や新事業を創造する企画立案力等「実学」を意識した、社会に変革をもたらすグローバル・リーダーを育成

国際マネジメント研究科

八景

■国際マネジメント専攻
グローバル化が進む企業で活躍する人材育成を教育目標とし、経営学・経済学を学ぶソーシャル・イノベーション社会人MBAプログラム(SIMBA)も特徴

理学部

Campus 八景 舞岡 鶴見

物理学、化学、生物学を基盤とし、生命現象を原子・分子・細胞・個体それぞれのレベルで解明し、融合的に物質科学と生命科学に挑んでいける人材を育成

生命医学研究科

鶴見

■生命医学専攻
基本設計図であるゲノムを基軸にさまざまな生体分子の構造と機能を解明し、多様な環境に生きる動植物・微生物の生命維持システムを理解するための教育と研究を行う

生命ナノシステム科学研究科

八景

■物質システム科学専攻
■生命環境システム科学専攻
電子・原子・分子の視点から、実験科学と計算科に基づき、生命現象を含めた物質システムを解明するための教育と研究を行う

データサイエンス学部

Campus 八景

文系理系にとらわれない広範な教育でビッグデータから「未来の芽」を見つけ出し、新たな社会的価値を創造するデータサイエンスのスペシャリストを育成

データサイエンス研究科

みなとみらい 八景

■データサイエンス専攻
従来のデータ解析における、現場の知識の重要性に対する認識不足を解消し、PBLを中心とした学びを提供

■ヘルスデータサイエンス専攻
ヘルス領域(疾病予防、医療、介護、保健)において、データサイエンスの知見をいち早く社会応用し、新たな価値を実社会に還元する人材を育成

医学部医学科

Campus 八景 福浦

豊かな人間性と深い知性を有し、生涯にわたって研鑽を続け、医学・医療を通して、人類の福祉に貢献できる人材を育成

医学研究科

福浦

■医科学専攻
生命科学、医学、医療分野の発展に大きく貢献できる国際的な指導者を育成

医学部看護学科

Campus 八景 福浦

高い教養と専門性だけでなく、他者の痛み、喜びも理解できる豊かな人間力で未来の看護をけん引できるリーダーを育成

医学研究科

福浦

■看護学専攻
専門看護師、特定行為研修(術中麻酔管理領域等)、助産師の育成にも力を入れている

横浜市立大学附属市民総合医療センター 655床 神奈川県横浜市南区浦舟町4-57

疾患別センター：10センター

高度救命救急センター/総合周産期母子医療センター/リウマチ膠原病センター/炎症性腸疾患(IBD)センター/精神医療センター/心臓血管センター/消化器病センター/呼吸器病センター/小児総合医療センター/生殖医療センター

専門診療科：25診療科

総合診療科/血液内科/腎臓・高血圧内科/内分泌・糖尿病内科/遺伝子診療科/がんゲノム診療科/緩和ケア内科/脳神経内科/乳腺・甲状腺外科/整形外科/皮膚科/泌尿器・腎移植科/婦人科/眼科/耳鼻咽喉科/放射線治療科/放射線診断科/歯科・口腔外科・矯正歯科/麻酔科/ペインクリニック内科/脳神経外科/リハビリテーション科/形成外科/臨床検査科/病理診断科



横浜から世界へ羽ばたく人材育成

新しい社会が必要とする人材を育成し、高度な専門性、豊かな教養、グローバルな視点、データ思考、課題発見・解決力を身に付けていきます。

YCUの学部教育は、教養教育、グローバル教育、地域での学び、そして専門教育を柱に展開していきます。これらにより高めた総合力を、それぞれの専門教育において応用・深化させていく、そんな体系的な教育プログラムがYCUにはあります。

PICK UP

AI Data Science Education Program for Tomorrow

ADEPTプログラム(AI Data Science Education Program for Tomorrow)は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定。データサイエンス学部の学生を対象とした「データサイエンス人材育成プログラム」は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)プラス」に認定。



世界を変えろ
世界初を生み出す
「ゲームチェンジャー」を
横浜の地から輩出する



FOR STUDENTS

基礎力

専門教育

グローバル教育

世界各国の大学・研究所等と国際的な交流を推進するYCUでは、語学力を培う場として、キャンパス内では英語で学ぶ科目を120科目以上開講したり、海外学生を受け入れ共に研究活動やグループワークを行ったりと、さまざまな機会を用意しています。さらに学びの実践として、短期留学、長期留学、交換留学、海外フィールドワーク支援プログラム等があり、毎年多くの学生が世界の各地で国際性を磨きながら成長しています。



YCUの教養教育

文理融合型の共通教養を中心に、大学で学ぶための基盤づくりを重視しています。1年次から英語力、データ活用、論文作法など幅広い基礎力を養い、自ら課題を発見し解決する力を育てます。

国際交流実績



ヨコハマで学ぶ

さまざまな産業が集積する大都市・横浜には、多くの都市型の課題や地域の課題が存在しています。YCUでは、横浜という地域そのものを学びの場として、共通教養科目やゼミ、ボランティア活動等を通じて、行政や企業、地域住民とも関わり合いながら、社会課題への実践的なアプローチを学ぶことができます。

グローバル人材育成のためのYCUの語学教育体系

<p>専門科目・全学開放科目</p> <p>専門科目を英語で学ぶことで、実践・ビジネスに強い英語力を強化</p>	<p>共通教養科目</p> <p>英語で学ぶ科目もあり、PE、APEで培った英語力を生かせる</p> <p>TOEFL 600</p>
<p>Advanced Practical English 初習外国語</p> <p>中国語 韓国・朝鮮語 ドイツ語 フランス語 スペイン語</p>	<p>レベル別、目的別にクラス分け、さらに英語力を伸ばす</p> <p>TOEFL 500-550 レベル</p>
<p>Practical English Center</p> <p>個別カウンセリングや学生のケアを行います。</p>	<p>リベラルアーツ教育を学ぶために必要な、実践的な英語力を身につける</p> <p>必修 TOEFL 500 相当</p>

データサイエンス教育

2018年4月、首都圏初のデータサイエンス学部を開設。2020年4月には大学院データサイエンス研究科データサイエンス専攻およびヘルスデータサイエンス専攻の2専攻を開設。学部・大学院の教育を通じて、体系的に学んだデータサイエンス技術と社会課題に取り組む力を備えた人材を育成します。



実社会におけるデータサイエンス活用の事例や解決に向けた一連の流れを学習するため、1年次から企業等と連携したPBLプログラムを実施しています。

キャリア教育

YCUでは、授業においても学生のキャリア構築を支援するカリキュラムを設け、自己分析や議論を通じ多様な視点を育てます。また、キャリア支援センターではキャリア相談対応やイベント開催を通じて、多方面から学生の成長を後押ししています。



キャリアサポーター制度では、登録する3,500名以上の卒業生から職場の雰囲気や就職活動時の話を聞くことができる。さらに「キャリアサポーターと学生の集い」も毎年開催。

領域横断教育

YCUでは、学部の専門を越えて学べる領域横断型プログラムを多数設置し、学生が興味に応じて学びを広げられる仕組みを整えています。グローバル、リーダーシップ、医療イノベーションなど、複数分野を組み合わせて学ぶことで、複雑な社会課題に対応できる総合的な力を育成します。

さまざまなキャリア形成



医学部 高い国家試験合格率



知の創生・発信

独創的かつ革新的な研究や分野融合型研究を通じてイノベーションを創出し、世界とつながる「知の拠点」としての連携を構築しています



木原生物学研究所

附置研究所

当研究所では、理化学研究所等と連携し、ゲノム科学や遺伝学、バイオインフォマティクスやケミカルバイオロジーなど幅広い分野の最先端植物科学研究を通して、持続可能な社会への貢献を目指しています。

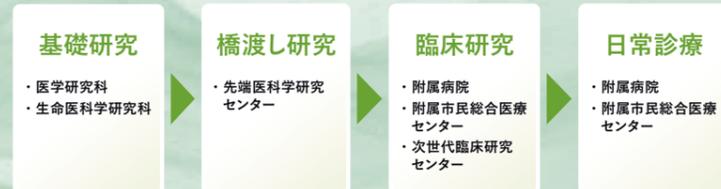


先端医科学研究センター

附置研究所

福浦キャンパスに設置された当センターでは、がん、生活習慣病などの克服を目指した基礎研究と、その成果を臨床に応用する橋渡し研究(トランスレーショナル・リサーチ)を推進しています。

トランスレーショナル・リサーチ体制



次世代臨床研究センター

臨床研究支援組織 (ARO)

当センターでは、臨床試験関連の法令に精通した医師、薬剤師、看護師、事務職員など多職種がそれぞれの専門性と知識をいかして、附属2病院および学外の研究者が臨床試験をスムーズに遂行できるよう多角的な支援をしています。



共創イノベーションセンター

研究支援ファシリティ

横浜・神奈川から世界へ、未来へ。一人ひとり輝くウェルビーイングを共に叶えることを目指して

本学の産学連携研究のさらなる発展と社会実装に向けた中心的な役割を担う新しい産学官民連携、オープンイノベーションを推進する組織として、2024年4月にYCU共創イノベーションセンターを新設。多様なステークホルダーと共に、社会アジェンダ(社会課題・テーマ)の解決・実現を目指します。



オープンイノベーションラボ

研究支援ファシリティ

産学官連携を加速し、J-PEAKSの研究成果創出を推進

2025年4月に竣工し、11月に開所式を行った「オープンイノベーションラボ」は、企業・研究者・市民が集い、社会課題の解決に向けた共創を実現する新たな拠点です。共創イノベーションセンターと連携し、横浜という都市をフィールドに、研究成果の社会実装を加速させる場として、未来志向のイノベーション創出を目指します。

国際学術雑誌での
発表論文数が増加

Clarivate Analytics社の
InCitesデータベースより算出 (Article & Review)
※日本語論文は含まず
※各年度の初めに算出した数 (共著含)

横浜市立大学
2024年の論文数
1,119本
法人化以降
約2.5倍にアップ

2005年の
論文数
441本

詳しくは
研究ポータルサイトへ



医学、基礎生命科学、植物科学を中心に、世界の注目を集める

研究成果を数々発信しています

種の壁を乗り越える次世代育種技術の開発へ／木原生物学研究所

植物の種の障壁の仕組みを解明し、異種間の自由な交雑を可能にする次世代育種技術の開発を目指す。これまでに例のない新品種を作出し、気候変動に伴う地球規模課題の解決に貢献する。



新型コロナウイルス感染症の後遺症“ブレインフォグ”の病態を新しい脳画像法で解明

神経細胞同士の情報伝達のやりとりの要であるグルタミン酸AMPA受容体が、いわゆる“ブレインフォグ”に関わることを解明。“ブレインフォグ”を脳の変化に基づいた診断、治療を行うことができる可能性を示唆している。Fujimoto Y et al(2025)



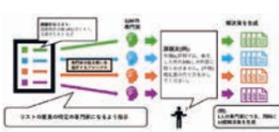
医学部遺伝学 松本直通教授がブラジルでRare People Awardを受賞

今回の受賞は、ソス症候群、マルファンII型症候群等、希少疾患に関連する数十の遺伝子を発見し、希少疾患への理解と治療への支援により科学と社会貢献に献身したことを称えるものである。



大規模言語モデルによるひらめきの創出

解決が困難な課題に対し、大規模言語モデルを用いて異分野融合による効果的な解決策を生み出す手法SELLMを提案。産学を問わない幅広い課題や問題に対して、異分野融合的な有望な解決策やひらめきを提供し得るポテンシャルがある。Tomita H et al(2025)



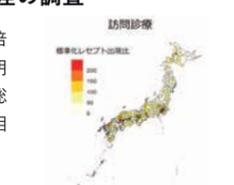
メンタルヘルス不調の影響、年間7.6兆円の生産性損失に—GDPの約1.1%に相当と試算

本研究は、全国27,000人超の調査データをもとに、メンタルヘルス不調の影響を金額で可視化したもので、企業や自治体が進める働く人の健康支援や今後の研究の発展にも大きな示唆を与えると期待される。Hara K et al(2025)



レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を利用した医療格差の調査

在宅医療の利用に数十倍から200倍以上の地域格差が存在することも明らかになり、また、地理的条件を総合評価するRIJと在宅医療利用の相関を世界で初めて実証した。Shibata M et al(2025)



若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現する共創拠点

COI-NEXT拠点Minds1020Labオリジナルキャラクターを活用したオンラインカウンセリングである「アニメ療法®」の実証実験を開始。生きづらさを抱える若者を主な対象に、「生活の質(QOL:Quality Of Life)」の向上につながる「社会的処方」としての有効性・有用性を検証して、社会実装を目指す。



他にも、横浜市教育委員会と共同研究契約を締結し、全国最大規模の教育ビッグデータを活用した的確なケアシステムを開発(横浜教育データサイエンス・ラボ)するなど、さまざまなプロジェクトに取り組む。



知的・医療資源の還元

県内唯一の公立大学医学部および2つの附属病院として、全国から多数の入局希望者を受け入れ、医療人材を育成し、地域に輩出。地域医療を支えています。

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY HOSPITAL



附属病院

横浜市内唯一の特定機能病院

当院は、横浜市内唯一の特定機能病院として、高度急性期医療の強化に務め、先端的な医療を積極的に導入しています。

複数の医療機関を支援する遠隔ICUシステム



複数の病院の医療情報をネットワーク通信でつなぎ、医師等が患者さんをモニタリングし、遠隔で現場の医師等に助言します。2026年現在、当院含め4病院を支援しています。

がんゲノム医療拠点病院に指定



2023年4月より、厚生労働省の「がんゲノム医療拠点病院」に指定されました。豊富な経験を生かし、今後も、がんゲノム医療を推進していきます。

YCU横浜早期隣癌診断プロジェクト



横浜市や横浜市医師会と連携し、かかりつけ医師を通じて精密画像診断を推進し、隣癌の切除率を向上させます。

災害現場へ、いち早く。 横浜市立大学 × 横浜市消防局による医療連携強化 ～医師が消防航空隊ヘリに同乗、早期に高度な救命処置を実現～

横浜市立大学と横浜市は、災害時の医療提供体制を強化するため、2025年8月に、消防航空隊と医療連携に関する協定を締結しました。この取り組みにより、附属病院の医師が横浜市消防航空隊のヘリに同乗し、災害現場から搬送先医療機関まで一貫して高度な救命処置が実施できる体制を整えました。



PICKUP

地域医療を支える医師派遣

常勤医派遣数 **2,142**名
●横浜市内 1,121名
●横浜市内(県内) 842名
●神奈川県外 179名
派遣病院数 **165**院

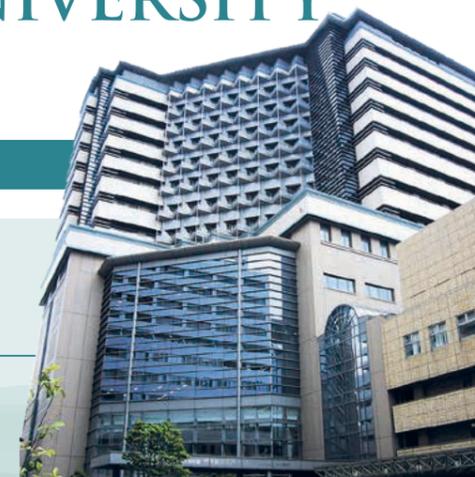
非常勤医派遣数 **1,448**名
●横浜市内 853名
●横浜市内(県内) 565名
●神奈川県外 30名
派遣病院数 **275**院
(2025年4月時点)

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY MEDICAL CENTER

附属市民総合医療センター

2007年9月、大学病院として全国初の「地域医療支援病院」に認定

「地域医療支援病院」としてかかりつけ医の支援や、救急医療など地域医療の中心的な役割を担っています。



災害拠点病院



地域の医療機関を支援する機能を有し、重症・重篤な傷病者を受け入れるなど、災害時の医療救護活動において、中心的な役割を担う病院として位置づけられています。

横浜市内唯一の高度救命救急センター



当院は、横浜市唯一の高度救命救急センターを擁し、地域の救急医療の「最後の砦」として、特に高度な医療を必要とする重篤な救急患者さんの受け入れを24時間体制で行っています。

がん診療の取り組み



当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、日本人に多い5大がんを中心に、質の高いがん医療の提供に務めています。

医学部・病院等再整備事業

医学部および附属2病院は、高度で先進的な医療の提供、医療人材の育成・輩出、最先端の医学研究の推進など、さまざまな役割を果たしています。施設の老朽化・狭隘化が進む中、医療を取り巻く環境の変化へ適切に対応し、引き続き、市民の健康と命を支える「最後の砦」の存在としてあり続けるため、築30年を超える医学部・病院等の再整備の検討を横浜市と共に進めています。



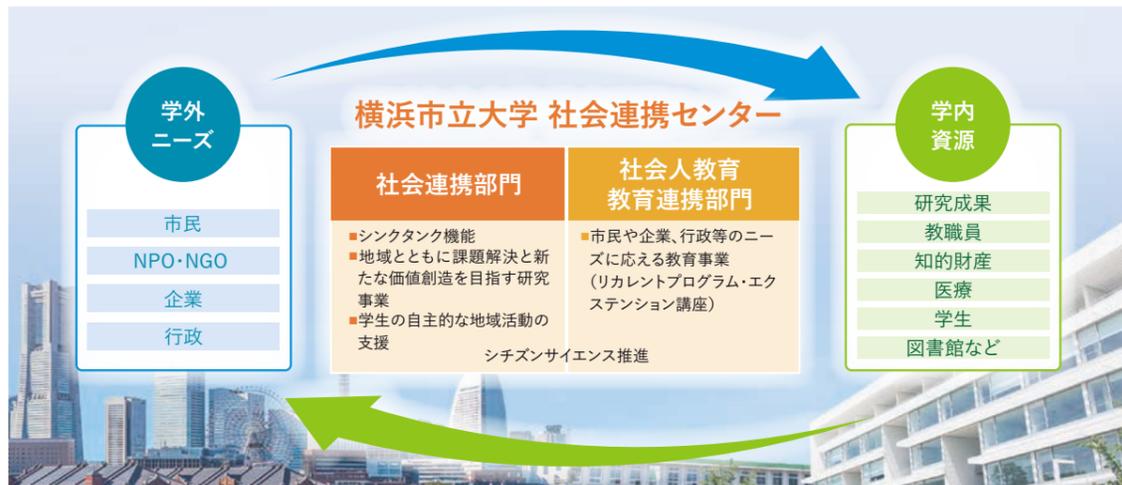
ヨコハマをフィールドに、 社会とつながり、ともに歩む

行政・企業・市民と大学の教員・学生が協働し、社会課題の解決や新たな価値創造、さまざまな世代の人材育成に取り組んでいます。

PICK UP

横浜市立大学「社会連携センター」始動

2026年4月、地域貢献センターは「社会連携センター」へと改称し、みなとみらいサテライトキャンパスを拠点として新たに始動しました。地域課題解決や新たな価値創造に向けた研究事業や市民の生涯学習支援、学生の地域活動支援に加え、企業と連携したリカレント教育やシチズンサイエンスの推進など、地に足が着いた形で大学の「知」と地域の皆さまをつなげる新たな社会連携を推進していきます。



地域とともに課題解決と新たな価値創造を目指す研究事業

企業緑地を活用した まち保育的環境学習プログラムづくり

国際教養学部・三輪律江ゼミでは、企業緑地を地域の自然資源として活用し、まちの資源を開いて子どもとまちを共に育む「まち保育」の視点から環境学習プログラムを展開。私有地である企業緑地の地域開放を試行しつつ、そのみどり価値の可視化と地域・企業の共生に伴走しています。



社会学入門の授業から生まれた 地域協働プロジェクト

国際教養学部「社会学入門a」の授業（角田隆一准教授）では、学生たちが金沢区のみちを実際に歩き、写真を通じて「隠れた魅力」を発見する新たな取り組みを実施しました。その成果は、金沢区公式Instagramを活用したキャンペーンで発信されました。



学生の自主的な地域活動

ボランティア支援室とは

学生の「地域に貢献したい」という意欲や、地域での主体的な学びをサポートするため、学生の活動希望と地域からの要請（ニーズ）のコーディネート、ボランティア情報の収集と発信、また初めてボランティアに参加する学生が安心・安全に活動できるようサポートを行うなど、地域社会でのボランティアを通じて成長する学生の側面的支援を行っています。

フードロス削減に向けた「食のサイクル活動」

フードロス削減のため、公益社団法人フードバンクかながわなどから賞味期限近の食品等を引き取り、学生に配布する一方、学生のフードドライブ活動などを支援し「食のサイクル活動」を進めています。



市民や企業、行政等のニーズに応える教育事業

市民向けエクステンション講座から、実務に役立つリカレントプログラムまで、社会人を対象としたさまざまなプログラムを企画・実施。学部・大学院科目の一部開放や大学院への接続等を配慮したプログラムも提供しています。また、企業や自治体のニーズに合わせたオーダーメイド研修も行っています。

学生団体・科学倶楽部の 「親子で楽しむ科学実験」

講座の運営をすべて学生が担い、毎年開催している人気のエクステンション講座の一つ。「サイエンスの楽しさや面白さを伝える」をテーマに、理科が苦手な子どももひらめきや感動を体験できる実験を企画しています。



授業開放講座

エクステンション講座として、「データサイエンス入門」「生命科学と環境」「心理学入門」「地理学入門」「東洋文化」など総合大学ならではの多彩な正規授業を市民に開放しています。生涯学習の充実と次の学びへの一歩を支援！



地域医療・ヘルスケアを先導する 変革人材を育成 YCU医療経営・政策プログラム

医師・看護師などの医療従事者に加え、行政職員や企業関係者を対象に、大学病院や地域病院の経営課題を解決できる人材を育成するため、講義・ケーススタディ・個人の特別研究を組み合わせた履修証明プログラムです。さまざまな受講生がネットワークを築けることも魅力の一つです。

産官学連携 リカレントプログラム 位置情報データ活用講座シリーズ

位置情報や人流データを収集・分析し、観光などの事業計画の作成や施策の提案ができる人材を育成するプログラムです。2026年2～3月の講座では、GREEN×EXPO2027をテーマに、新たな施策提案を課題としました。



2024年度実績

派遣数

706名

依頼数

187件

海洋ゴミ問題やリサイクルを通して「環境を守る活動」

海洋プラスチックゴミを減少させ海洋環境を改善させるために、株式会社シードと協働して、キャンパス内で使い捨てコンタクトレンズの空ケース（プリスター）の回収活動などを行っています。



学生団体「Clover (シーラバー= sea+lover)」

医学部があるYCUならではのボランティア活動

本学では医学部系ボランティア団体の活動も活発です。ボランティア支援室では、団体の活動を活動資金面や、補助金・助成金情報の提供、イベント等の周知などでサポートしています。



学生団体「One by ONE」「医学部 YDC」「Hair for Children」「東洋医学研究会」等



ひらく×つなぐ =かがやくYCU

2028年に創立100周年を迎えます

横浜市立大学の歴史には、時代を駆け抜けた人々の想いがあります。
商学の発展のために、医療の発展のために、力を尽くした先人たちがいます。
時代をも越える英知を持ち、賢明に時代をリードしてきた人々。
わたしたちは歴史の一途をたどりながら、先人の功績に感謝し、
そして世界を目指し、時代の先へと向かって歩き続けます。
未来をひらき、それによりこれまでの100年をこれからの100年につないでいくことで、
みんなが輝くYCUでありたいという想いととも。

記念事業プロジェクト

100周年を迎える2028年までの間、YCU Vision 100を推進する4つのプロジェクトを展開します。



教育

ビジネス人材育成・
留学支援プロジェクト



研究

新たな研究創生
プロジェクト



環境整備

学生生活・環境改善
プロジェクト



再整備

医学部・病院再整備
プロジェクト

YCU100 募金へのご支援のお願い

YCU Vision 100の実現を目指し世界で活躍する優れた人材の育成や新たな研究創生、キャンパス環境整備を推進するため「YCU100募金」を設置しました。皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- インターネットからもお申込みいただけます。
- 税制上の優遇措置や手続きについてはWebサイトをご覧ください。
- 詳しくは大学Webサイトまたはリーフレットをご覧ください。

寄附の目的

- 00 大学一任(YCU Vision 100を達成するため活用)
- 01 ビジネス人材育成・留学支援プロジェクト
- 02 新たな研究創生プロジェクト
- 03 学生生活・環境改善プロジェクト
- 04 医学部・病院再整備プロジェクト



ご寄附のお願い



税制上の優遇措置の詳細